



## 芸劇リサイタル・シリーズ「VS」 Vol.5 阪田知樹 × 高木竜馬

Geigeki Recital series "VS" Vol.5 SAKATA Tomoki × TAKAGI Ryoma

# 阪田知樹と高木竜馬が ロマン派ヴィルトゥオーゾの対決を切り取る！

リストとタールベルクによる歴史的ピアノ対決をオマージュ。プログラムを組んだ阪田知樹が、作曲家二人への想いと聴きどころを語る。

13歳での出会い以来、リストを特別な存在として敬愛してきた阪田知樹。彼が「VS」シリーズのプログラムを考えれば、それは当然、1837年に開かれたリストとタールベルクによる歴史的ピアノ対決がテーマとなった。

「当時のパリでは、ヴィルトゥオーゾとして二人が絶大な人気を集めていました。一部の反リスト派がタールベルクを持ち上げるので、リストが対抗し、彼は大したことがないと公言した記録も残っています。そんな中、後に「象牙の戦い」と呼ばれたピアノ対決が行われ、主催者の侯爵夫人が、「タールベルクは世界一のピアニスト、リストは唯一のピアニスト」という言葉を残したといわれます。

今回は、両者の生きたロマン派の時代の一瞬を切り取って再現します。共演は友人の高木竜馬君。彼なら超絶技巧作品も見事に弾いてくれるだろうと、お相手を頼みました」

前半はソロ作品。交互に聴くことで、両作曲

家の作風の違いと影響を感じられる。

「最初はそれぞれのノクターン。タールベルク《大夜想曲》は美しい旋律を持ちつつ展開が予想外で、やはり音数がとても多い。リストの《愛の夢》第3番もピアニスティックなパッセージが多いですが、タールベルクの音数の使い方との違いが感じられます。

続いてはオペラからテーマをとった作品。《「エジプトのモーゼ」の主題による幻想曲》はタールベルクの力作で、彼の特徴とされた、真ん中で旋律を弾き、両外側をアルペジオで埋める「3本の手」というテクニックも現れます。リスト《「ノルマ」の回想》にはそのテクニックが取り入れられているので、興味深いでしょう」

後半はリストの2台ピアノ作品を2曲。

《「ヘクサメロン」》はもともとソロ作品で、リストだけでなく、ショパン、チェルニー、タールベルクなど6人の作曲家の手による合作。前述の「ピアノ対決」の日に披露される予定でしたが、

完成が間に合わず、かわりに二人の競演が行われたという因果があります。

今回弾くのは、それをリストが2台ピアノ版としてコンパクトに編曲したものだ。実はこの楽譜、今は正式に出版されているものがなく、私がリストのエキスパート、レスリー・ハワードさんから特別に譲り受けた楽譜を使って演奏します」

もう1曲は、隠れた名曲《悲愴協奏曲》。「独奏用の原曲が書かれたのは、口短調ソナタと同時期で、内容もとても充実しています。アルゲリッチ&フレイレや、変わったところだとバルトーク&ドホナーニなど数々の巨匠の録音がある、実は人気の作品です」

一般によく知られていない楽曲も含まれるが、ぜひこの機会に聴いてほしいという。

「これこそピアノが特別に輝いていた時代の音楽だと、一緒に体験できる時間になれば嬉しいですね」

取材・文：高坂はる香（音楽ライター）



阪田

SAKATA Tomoki

知樹



高木

TAKAGI Ryoma

竜馬



11月10日(土) 19:00開演 コンサートホール 詳細はP9へ

出演：阪田知樹 高木竜馬(ピアノ)  
曲目：タールベルク/2つのノクターン 第1番 大夜想曲 嬰へ長調  
リスト/愛の夢 第3番 夜想曲 変イ長調  
リスト/2台ピアノの為の悲愴協奏曲 ほか

### リストとタールベルク、二人の関係とは？

世紀のライバルとして知られるリストとタールベルク。実際、二人の関係とはどのようなものだったのか？ 阪田知樹の見解を聞いた。

「リストの記録は多く後世に伝わっていますが、タールベルクは後にナポリの田舎に移ったこともあり、発言もあまり残っていません。そのためこれまで本当に対立していたかはわかりませんね。ただ、リストがタールベルクに一定の評価をしていたことは確かで、彼の没後に記念碑の資金を出しているくらい。対立がプロモーションの一部だった面もあるかもしれません」

そもそも、ピアノ対決後の「世界一」と「唯一」という評価は、何を意味するのだろう。

「私が思うに、タールベルクは人々が思う上手なピアニストの中で一番ということで世界一。リストは先達のテクニックも全て吸収して独創的なものを生む、その想定外なところを唯一と評せるのではないかと思います。同じベクトルで測れない音楽家だったのでしょう」

ライバルの存在があったからこそ生まれる芸術がある。二人の関係は、その典型の一つといえそうだ。